



**ふるさと名物**  
Furusato Meibutsu



「生野銀山」「竹田城跡」「岩津ねぎ」—銀が導く永遠の絆  
兵庫県朝来市



わが市町村の  
ふるさと名物は  
これ!





ふるさと名物  
Furusato Meibutsu

# 応援宣言

## 地域の プロフィール

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、国道9号線と国道312号線、JR山陰本線とJR播但線が結節する交通の要衝であり、市川と円山川の源流を発する山々と、その麓に広がる田園など、豊かで美しい自然に恵まれたまちです。

市内には、歴史・文化にあふれた見どころが多くあり、日本100名城の一つであり、完存する総石垣づくりの山城としては全国屈指の規模を誇る「竹田城跡」は、秋の雲海に代表されるその壮大な眺めから「天空の城」「日本のマチュピチュ」と称され、国内外から多くの皆さんにお越しいただいています。

また、1200年の歴史を持つ「生野銀山」をはじめとする鉱山跡では、多くの近代化遺産を見ることができますし、本市の気候と土壌が育んだ「岩津ねぎ」は日本三大ねぎの一つと言われ、冬場の冷え込みが厳しくなると独特の風味と甘みが増し多くの方に好んで食されています。



朝来市  
マスコットキャラクター  
「ちゃすりん」

## 「竹田城跡」

昨今では天空の城として様々なメディアに取り上げられ爆発的なブームとなった「史跡・竹田城跡」は、400年を経た今でも当時の威容をそのままに誇っています。

この竹田城は、室町・戦国時代の守護山名氏が築城、初代城主に太田垣光影が就きました。

## 「生野銀山」

その後、豊臣秀吉の弟秀長は「生野銀山」を確保するために竹田城を攻め、最後の城主赤松広秀が現在のような豪壮な石垣を築きました。この織田・豊臣の資金源となった「生野銀山」は自然銀を含む日本最大の鉱脈であり、徳川時代には生野代官所が置かれ最盛期を迎え、明治時代には近代化を先導する模範鉱山として日本初の官営鉱山となりました。現在では、その遺産を地域活性化に有効活用すべきと、近代化産業遺産に認定（経済産業大臣）、重要文化的景観に選定（文部科学大臣）されています。



## 「岩津ねぎ」

このような栄華な時代の背景には、過酷な労働環境のもとで働く鉱夫の姿がありました。この鉱夫の栄養源となったのが、日本三大ねぎの一つ「岩津ねぎ」です。「岩津ねぎ」は、当時の生野代官所の役人が京都に赴いた際に、九条ねぎの種子を持ち帰り、現在の朝来市岩津で栽培したのが始まりと言われています。

ねぎといえば、脇役として使われるイメージが強いですが、この「岩津ねぎ」は青い部分から白い部分まで全て食べられ、特にムチンという甘みのあるとろみには独特の風味とともに疲労回復効果もあり、当時の鉱夫が好んで食したと言われています。

現在では、「岩津ねぎ」の料理コンテストも実施しており、様々な調理方法で多くの方に食され脇役ではなく主役になりうる食材となっています。



# 朝来市のふるさと名物

## 生野銀山



## 栄華な時代へ タイムスリップ体験



鉱山遺跡や古い町並み、中世から近世の鉱山独特の文化や生活の変遷をたどり、生野のまち全体が歴史文化ミュージアムとして体験型の観光プログラムを展開していきます。

### ◆銀の体験ツーリズム

「生野銀山」の坑道巡りや生野の鉱山町散策など、銀をキーワードとした栄華な時代の体験ツアーを実施します。

### ◆ハイカラ文化の再現

昭和30年～40年代の生野鉱山が大きくにぎわった頃には、都会のハイカラな文化が鉱山職員とともに入ってきました。  
ハヤシライスなどの食文化や生活を復刻し観光客をもてなします。



### ◆銀や錫を使った土産の開発

「生野銀山」の銀や錫にまつわる商品や土産物を開発し、タイムスリップのお土産として現世へ持ち帰っていただきます。



# 朝来市のふるさと名物

天空の城、日本のマチュピチュと称される「竹田城跡」の幻想的風景と豪壮さ、また城下町の風情ある町並みを満喫いただく歴史体験観光型プログラムを開発します。

## 竹田城跡



### ◆竹田城主体験ツーリズム

城主になった気分で天空から眼下に広がる但馬の国を眺め、城下町を歩く。春には対面する北近畿随一の桜の名所「立雲峡」から竹田城を眺める。また、城主が管轄した「生野銀山」へと足をのばす。など、様々な体験型観光プログラムで来城者をもてなします。

### ◆雲海商品の開発

晩秋から初冬にかけて円山川から発生する霧が「竹田城跡」を包み、雲海に浮かぶ城は幻想的な風景を醸し出しており、雲海に絡んだ商品・サービスの開発に取り組みます。

## 天空の城へのいざない



# 朝来市のふるさと名物

## 岩津ねぎ



## 岩津ねぎの加工品



「岩津ねぎ」は、江戸時代から食されてきた歴史ある地場野菜であり、その栽培は後世へと受け継がれ今なお市民や多くの観光客から好んで食され朝来市の特産品となっています。夏の暑い時期に種を撒き、こまめに土寄せを行い冬の寒さが厳しい時期に収穫されます。農家の方が多くの手間を掛け、大変な作業を経て収穫されただけにその味は格別であり別格です。

「岩津ねぎ」の加工品や料理を開発し、本場「岩津ねぎ」の味を食卓にお届けします。

### ◆「岩津ねぎ」加工品の製造販売

「岩津ねぎ」を使用した調味料やお菓子等の開発、製造に取り組めます。



### ◆郷土料理の提供

「生野銀山」とコラボし、鉾夫が食した「岩津ねぎ」料理を郷土料理としてふるまいます。

### ◆健康食材としての研究・開発

「岩津ねぎ」独特のドロツとした甘み成分「ムチン」は肝臓や腎臓の機能を高め老化防止やスタミナ増強作用があるとされており、健康食材としての研究・開発に取り組めます。



その他、旬な「岩津ねぎ」を賞味いただくための製法や保存方法の研究、開発にも取り組めます。

## 生野銀山



### ◆イベントの実施

**銀谷(かなや)祭り**は毎年9月に開催され、生野の口銀谷地区全体を舞台に当時の華やかな時代を再現するイベントを実施しており、地域が一体となって来場者をもてなしています。

**へいくろう祭り**は毎年4月に開催されます。地元では、古くから春の陽気にさそわれて仕事をさぼることを「へいくろうする」と言い、

「生野銀山」周辺で春に咲くヒカゲツツジを地元では

「へいくろう花」と呼ばれています。へいくろう花に

囲まれて実施されるお祭りで毎年多くの来場者で

賑わっています。



### ◆日本遺産登録に向けて

近代日本の鉱山開発の歴史とともに、**銀の馬車道**(生野～姫路)

**鉱石の道**(明延～神子畑～生野)といった鉱物の輸送路が作られ、広域ネットワークが形成されました。

平成19年に鉱石の道は経済産業省の近代化産業遺産群の認定を受けており、現在、銀の馬車道と鉱石の道を結ぶ関係市において日本遺産登録に向けた取組を実施しています。





## 竹田城跡



## ◆アプリ「天空の城 竹田城跡」をリリース

「竹田城跡」へお越しになった方に

- ①「竹田城跡」の情報をいち早く教え
- ②「竹田城跡」をガイドもしてくれる
- ③さらに朝来市の観光ナビ機能も搭載した

便利なアプリ「**天空の城 竹田城跡**」をリリースし

お客様により便利に快適に「竹田城跡」を案内します。



## ◆城下町の賑わい創出

400年の歴史を持つ造り酒屋を改修し、ショップや竹田城の歴史を学べる情報館、宿泊施設を備えた「**たけだ城下町交流館**」を整備しました。

そのほか、「竹田城跡」への観光客をターゲットにした起業家への支援等も行っています。

## 岩津ねぎ



### ◆「岩津ねぎ」の生産促進対策

「岩津ねぎ」の生産促進を図るため、栽培に係る経費の一部を補助しています。

補助対象となる経費	補助率等
岩津ねぎの出荷販売合理化促進	10アール当たり10,000円
岩津ねぎ採種・保管事業	補助率1/2 200千円限度
岩津ねぎ雪対策事業	被覆資材1m 30円 30千円限度

### ◆「岩津ねぎ」のおいしさをもっと知ってもらうための取組

岩津ねぎ料理コンテストでは、こどもから大人までが参加し、創作料理の腕を競っています。

今年で9回目の開催となる朝来市の名物イベントです。

「岩津ねぎ」のおいしさをみなさんに知ってもらうため優秀な作品のレシピは公開しています。

今後は、「岩津ねぎ」の全国普及を目指し、全国の有名店に「岩津ねぎ」を売り込む等の取組を行ってまいります。



# 関係機関と連携した取組

## 生野銀山

### ◆銀の馬車道ネットワーク協議会・鉾石の道推進協議会との連携

県民局、関係自治体、商工会議所、商工会をはじめ青年会議所、旅行社、マスコミで構成する「銀の馬車道ネットワーク協議会」「鉾石の道推進協議会」を設置し、歴史研究・ツーリズムの振興や多彩な交流など様々なプロジェクトを推進しています。



## 竹田城跡

### ◆商工会や運行事業者との連携

商工会とタイアップし、「竹田城跡」や竹田城下まちの魅力を発信し続ける取組を推進。取組を通じた新たな魅力あるまちづくり、地域の活力・活性化に寄与することを目的としてライトアップ事業を実施しています。また、JRや全但バスと連携し、「竹田城跡」へお越しになったお客様に満足いただけるおもてなしを実施しています。



「竹田城跡」のライトアップ



窓向きの座席や木目調の床張りにするなどの装いをした「天空の城 竹田城跡号」

## 岩津ねぎ

### ◆岩津ねぎ生産組合との連携

岩津ねぎ生産組合は、より高い品質と安心・安全な「岩津ねぎ」を生産するため、次のような活動を行なっています。市は組合と連携し、「岩津ねぎ」のブランド化に向けた取組を推進してまいります。

- 栽培暦に基づく適正な栽培管理による安心・安全の確保
- 栽培履歴の記帳
- 生産者へ栽培技術の積極的助言(岩津ねぎ生産アドバイザー)
- 出荷規格の遵守と「規格遵守指導員」による出荷時の品質チェックの実施
- 更なる「岩津ねぎ」ブランド力(価値)向上の取組
- 伝統野菜「岩津ねぎ」の特性維持の取組(優良系統の種子の保存・育種)



# 市長の応援メッセージ



天空の城として雲海に浮かぶ幻想的な光景が一躍有名になった「国史跡・竹田城跡」や日本の近代化の立役者となった「生野銀山」など、朝来市には中世から近世にかけ日本の歴史をかたどってきた数多くの遺産があります。そしてその歴史の中で育まれてきた食材の「岩津ねぎ」。これらは「銀」が結び付けた朝来市の強みであり名物です。

この強みを単なる観光名所や特産品として終わらせるのではなく、より付加価値を高めることにより朝来市の新たな産業の創出と地域の魅力向上を図る必要があります。

朝来市の魅力を対外的に発信し、より多くの方に本当の朝来市を知っていただくため、朝来市は「生野銀山」「竹田城跡」「岩津ねぎ」をふるさと名物として応援すること宣言いたします。

朝来市長 藤田 隆